

自尊感情を高めるための発達段階に応じた指導上の留意点（試案）

発達段階		I 就学前教育【児童前期】	II 小学校教育【児童期】			III 中学校教育【思春期】	IV 高等学校教育【青年期】
			低学年	中学年	高学年		
観点	項目	指導上の留意点					
A 自分への気付き	1 活動を評価し、その子自身を認めます。	○自分の思いで取り組んでいた、できるようになったり、新しいことに挑戦したりしていることを評価します。	○自分のことは自分でやって、自分でやろうと決めて行動したりしていることを評価します。	○新しくできるようになったことがあったり、繰り返し努力したり、工夫したりしていることを評価します。	○新しい行動や考え方を見つけて実行したり、以前よりよくなったりしていることを評価します。	○前回できなかったことができるようになっていたり、努力して取り組んだりしていることを評価します。	○既習内容を繰り返し確認したり、前回できなかったことができるようになっていたり、努力して取り組んでいることを評価します。
	2 活動を自己決定させます。	○遊びや仕事を選んで取り組むことができるようにします。	○考えたことを表現しながら、活動を選んで取り組むことができるようにします。	○得意なことを生かせる場を考へ、選んで取り組むことができるようにします。	○今、何ができるのか考へ、確実に取り組むことができるようにします。	○行動目標を立て、今後の自分の活動の方向性を明確にして行動することができるようにします。	○自分の特性や役割を果たし集団に貢献する場面や方法を考へて行動することができるようにします。
	3 活動のルールや目標をもたせます。	○生活の仕方等のきまりを守って行動できるようにします。	○学校のきまりを守って行動できるようにします。	○学級で考へたきまりを守って行動できるようにします。	○自分たちで決めたきまりを守って行動できるようにします。	○自分たちで作った組織のルールを自主的に守って活動できるようにします。	○集団の活動の目標達成に向け責任をもって自ら努力できるようにします。
B 自分の役割	1 自分が周りの人の役に立っていることを実感させます。	○保護者や友達等、周りの人のために行動できたことに気付かせます。	○班等の友達のための活動を考へ、実行できたことに気付かせます。	○学級の友達等のためにできることや頑張れることを考へ、実行できたことに気付かせます。	○学級や学年のためにできることを考へ、工夫して活動できたことに気付かせます。	○学級全体や学校全体がまとまることや学級や学校の活動がスムーズに進むことを大事にして活動できたことに気付かせます。	○自らが周囲に配慮して行動することで、所属する集団の活動がうまく進んだことに気付かせます。
	2 自分の力でできることがあることに気付かせます。	○片付けや準備等、自分でできることを最後までやらせます。	○家族や学級内の中で自分でできることを考へて実行させます。	○学級のためにできることを考へ、工夫して取り組ませます。	○自分の考へに自信をもち、リーダーとして小集団をまとめて活動させます。	○グループ学習での発言に責任をもち、その場に応じて何が正しいかを判断し、相手にアドバイスさせます。	○所属する集団の活動に主体的にかかわり、集団に貢献することの意義や喜びを感じ、行動させます。
	3 周りの人からの肯定的な評価を受ける場を設定します。	○遊んだことや考へたことをみんなの前で紹介し、友達から認められるようにします。	○グループ活動で、互いのよさを認め合えるようにします。	○学級等の活動で、互いの得意なことや好きなことを認め合えるようにします。	○様々な活動で、互いの考へ方や行動のよさを肯定的に認め合えるようにします。	○互いに考へ方や個性、努力を肯定的に認め合えるようにします。	○互いの考へ方や生き方、目標等を肯定的に評価し合えるようにします。
C 自分の個性と多様な価値観	1 自分の考へを大切にさせます。	○やりたい遊びを選び、自分のよさを発揮できるようにします。	○自分には得意なことやよいところがあることに気付くとともに、自分の考へを大事にできるようにします。	○得意なことを発揮するとともに、頑張ったことや考へ方等、自分の方法を大事にできるようにします。	○自分らしさを発揮するとともに、周りと異なる考へや得意なこと等を大切に表現できるようにします。	○学級や様々な集団の活動において、自分の個性を積極的に発揮することを大切にできるようにします。	○それぞれの特性や役割を積極的に果たそうとして主体的に行動することを大切にできるようにします。
	2 考へ方や行動の多様性を理解させます。	○同じ遊びでもやりたい子とやりたくない子がいることに気付かせます。	○やりたいことや好きなことは一人一人違うことに気付かせます。	○同じ事柄に対して、様々な考へ方があることに気付かせます。	○同じ事柄に対して、様々な考へ方があり、それが集団にとってもよいことに気付かせます。	○同じ事柄でも、いろいろな考へ方・感じ方があることを理解し、互いに調整して、よりよい活動を考へることの大切さに気付かせます。	○自己の適性を見つめ、行動することが大切であることを理解し、多様な行動の仕方や目標を認めることができるようにします。
D 他者とのかかわりと感謝	1 グループで話し合ったり活動したりして、多様なかかわりを体験させます。	○友達等と共に活動し、遊び方を工夫したり、ルールを決めたりすることができるようにします。	○班や当番等のグループや学級の仲間と一緒に話し合ったり活動したりすることができるようにします。	○班や当番等のグループで、きまりを決めて話し合ったり活動したりすることができるようにします。	○班や当番等のグループで、考へをまとめたり仲間と協力して活動したりすることができるようにします。	○様々な集団の活動で、学校や社会のルールを基に、互いの考へを尊重し合って内容や方法を決めたり協力して活動したりすることができるようにします。	○所属する集団を組織として意識し、各自が目標をもち、適性に合った役割を決めたり、互いに尊重したりしながら主体的に行動することができるようにします。
	2 周りの人に支えられていることを実感させます。	○友達等がいることで、活動が楽しくなったり新しいことを見付けたりできることに気付かせます。	○友達等がいることで、仲良くできたり、楽しい学級生活を送れたりすることに気付かせます。	○友達等と協力し合うことで、楽しくよりよい学級生活を送れることに気付かせます。	○友達等がいて学校生活が充実しているとともに、一人一人の活動は、多くの人の考へや助けがあっとうまくいっていることに気付かせます。	○友達等がいて学校生活が充実しているとともに、一人一人の活動は、周りの人の助けがあっとうまくいっていることに気付かせます。	○集団の仲間等、身近な人達の支えがあって、自分の目標が実現したり、活動が充実したりしていることに気付かせます。
E 自分の可能性	1 できたことやその過程を認め、達成感や充実感を味わわせます。	○一人でできたことや友達にあげたことに気付かせます。	○できるようになったことや一生懸命取り組んだことに気付かせます。	○繰り返し努力して、できるようになったことに気付かせます。	○目標をもって取り組み、困難を克服したことに気付かせます。	○粘り強く取り組み、困難を克服したことや自分の行動が他によい影響を与え、成果があったことに気付かせます。	○成就感や達成感を味わうために、新たな課題や次の活動に意欲的に取り組んだこと（生かしたこと）に気付かせます。
	2 否定的な面に対する気持ちを切り替えさせます。	○失敗や間違いをしても頑張っていることを評価します。	○失敗や間違いをしてもよくよせずに取り組んでいることを評価します。	○失敗や間違いを恐れずに取り組んでいることを評価します。	○失敗や間違いは大切な経験であることを理解し、実行していることを評価します。	○失敗や間違いを恐れずに、目標をもって取り組んでいることを評価します。	○失敗や間違いを恐れずに、目標に向かって主体的に活動していることを評価します。
	3 困っていること等は他者もあることに気付かせます。	○やりたいこと等を我慢することは、他の子も同じであることに気付かせます。	○友達も同様に、困難なことに対して頑張っていることに気付かせます。	○得意な子も苦手な子も一生懸命努力して取り組んでいることに気付かせます。	○困難なことや悩んでいることは、他の友達も同じようにあることに気付かせます。	○困難なことや悩んでいることは、他の友達も同じようにあり、工夫して乗り越えていることに気付かせます。	○できないことや困難なこと、悩んでいることは、誰もが同様に抱え、工夫して克服していることに気付かせます。